

特集2 風力発電関連産業の総合拠点化

洋上風力発電から広がる 北九州の未来

「風力発電関連産業の総合拠点」形成に向け、2011年から若松区響灘地区を中心に進めている「グリーンエネルギーポートひびき」プロジェクト。国が世界に向けて「2050年カーボンニュートラル(2050年までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す方針)」を打ち出す中、いよいよ令和4年度(2022年度)から、響灘の港湾区域において、公募選定事業者による大規模洋上ウインドファーム(※)の建設工事が始まり、令和7年度(2025年度)には25基の風車が運転開始する計画です。とはいえ、洋上風車の設置はゴールではなく、あくまでスタートライン。

この洋上ウインドファーム事業を呼び水に、幅広い関連産業が生まれ、地域経済の活性化や北九州全体のにぎわいにつながっていくことでしょう。新たな産業が、ここ北九州市で生まれ、形になろうとしています。

※洋上ウインドファーム・・・海の上に浮かぶ集合型風力発電。

本市が目指す風力発電関連産業の総合拠点とは？



O&M拠点
風車の運転・管理やメンテナンスを行います。

産業拠点
部品の製造・組立など、風力発電関連産業を集積した産業拠点となります。



風車積出拠点
風車設置場所へ風車を運び出します。



輸出入・移出入拠点
風車部品の輸出入の拠点となるほか、国内の他の洋上ウインドファームにも送り出します。

国から西日本で唯一指定を受けた洋上風力発電の基地港湾を核に、風車積出拠点、風車部品の輸出入・移出入拠点、O&M(※)拠点、産業拠点の4つの拠点機能を備えるものです。風力発電に不可欠なさまざまなサービスを絶え間なく提供する

体制をつくることこそが、日本の洋上風力発電を持続可能なものとするにつながると考えています。
※O&M(オペレーション&メンテナンス)：風車の運転・管理やメンテナンス。

どんな効果が生まれるの？

最大の目的は「新しい産業の創出です。洋上風力発電は、調査から部品の調達・製造、組み立て、建設、O&M及び海陸の物流に至る関連産業の裾野の広さが特徴。本市のモノづくりを長年支えてきた地元企業はもちろん、新たに誘致する企業も含めて雇用の広がりなど地域経済の活性化が期待されます。

一般的には、企業誘致や雇用の増加により、税収が増えることで市民サービスの向上が図れるなど、さらなる相乗効果をもたらします。また大学をはじめ、風力発電を中心に再生可能エネルギーや環境問題を学ぶ教育・研究機関のさらなる充実も想定されます。

なぜ北九州に？

洋上風力発電には、大型の風車部品を取り扱うことがでさる港湾施設や広大な産業用地、それを支える幅広い産業の集積拠点が重要です。また、年間を通じて風が強いことや再生可能エネルギーに関するノウハウや経験の蓄積も不可欠です。

これらの条件がそろっている本市は、開港130年を超える北九州港や、官営八幡製鐵所操業以来120年のモノづくりの歴史を持ち、公害克服を経てSDGs(※)未来都市として環境問題にも積極的・継続的に取り組むなど、これ以上ない最適地。まさに「北九州らしい」「北九州ならではの」取り組みと言えます。

※SDGs：持続可能な開発目標。

北九州こそ最適地！ 洋上風力発電に適した4つの特徴

✓ 充実した港湾施設

✓ モノづくり産業を支える企業が集積

✓ 良好な風況

✓ 港湾に隣接した広い産業用地